

Ⅱ 病院中期経営計画（改革プラン）

1 病院中期経営計画（改革プラン）の基本方針

(1) 計画期間及び目的

この計画期間は、平成21年度から平成25年度までの5年間とする。そして、この計画は、半田病院が地域の中核的医療機関として、安定した医療サービスの提供を確保していく中で、当院が抱える問題点、課題を整理・分析することを目的とする。

(2) 中期経営計画の「点検・評価・公表」

中期経営計画の策定にあたり、上記に定めた期間の中期財政収支計画及び中期経営指標等を含む「半田病院中期経営計画（素案）」を議会・住民代表・外部学識経験者・病院及びつるぎ町で構成する「半田病院経営委員会」に諮るものとする。

そして、計画(案)の主旨説明と審議を行う中で、取組み案件における実効性を検証していくほか、当委員会の提言をもとに本計画を見直すものとし、策定後は、議会へ説明報告を行う。

また、当委員会は、半田病院中期経営計画の実施状況の点検・評価をする諮問委員会を兼ねることとする。

計画実施後も当委員会で点検・評価を行い、計画に変更が必要となった場合は、適宜、見直していく。

つるぎ町は、改革すべき課題の現状認識と客観的な視点に立った、実効性のある「改革プラン」を策定し、つるぎ町立半田病院が地域医療を担う病院として存続していくことを基本方針とする。

この基本方針を踏まえた「中期経営計画」は、次に掲げる事項により構成するものとし、つるぎ町の関係機関による理解を得て、半田病院が安定的かつ自立的な経営を維持・継続できる体制を構築していく。

1 半田病院が果たすべき役割について

- ・ 県西部医療圏を取巻く地域医療の現状
- ・ 「地域包括医療」連携の推進
- ・ 県西部医療圏の産科集約化
- ・ 地域住民の理解と認識の共有

2 半田病院の経営形態について

3 診療機能の充実への取組みについて

4 経営の効率化について

5 事業計画について

以下、県西部医療圏の現状把握と課題を見極める中、地域の将来展望を分析し、半田病院の中期経営計画を策定していく。

2 半田病院が果たすべき役割

今回の改革プラン策定にあたり、最重点課題として位置づけており、今後、西部Ⅰ医療圏における地域医療の拠点医療機関として存続するため、また県西部をはじめとした広域医療圏を取巻く医療環境が大きく変化する現状を踏まえ、当院の存在意義と果たすべき役割について検証する。

(1) 県西部医療圏を取巻く地域医療の現状

つるぎ町立半田病院は、国民健康保険法に基づく保健事業の一環として設置された国保診療施設である。（以下「国保直診」という。）

このことは、国保直診として、医療サービスの提供を行うことに加え、被保険者の「健康の保持増進」を推進するほか、へき地医療や救急医療などの地域医療を担う公立病院である。

また、地域包括医療・ケアの拠点として活動し、地域住民の検診・疾病予防を通じた医療費適正化に積極的に取組むほか、県西部医療圏の医療機関との連携にも積極的に取組んでいる。

以下、次に掲げるデータをもとに地域の現状と将来展望を見極めていく。

年齢3階級別人口

H20.10.1現在

	総数	年齢別人口			年齢別割合(%)		
		0~14歳	15~64歳	65歳~	0~14歳	15~64歳	65歳~
徳島県	794,189	100,691	486,522	206,976	12.7	61.2	26.1
西部Ⅰ	44,135	4,796	24,568	14,771	10.9	55.6	33.5
美馬市	33,226	3,743	19,048	10,435	11.3	57.3	31.4
つるぎ町	10,909	1,053	5,520	4,336	9.7	50.6	39.7
西部Ⅱ	46,961	5,241	25,416	16,304	11.2	54.1	34.7
三好市	31,715	3,244	16,538	11,933	10.2	52.1	37.7
東みよし町	15,246	1,997	8,878	4,371	13.1	58.2	28.7

将来推計人口(徳島県保健医療計画資料抜粋)

(単位：人)

	平成17年	平成22年	平成27年
徳島県	813,818	798,270	777,079
西部Ⅰ	46,708	43,642	40,562
美馬市	35,006	33,191	31,257
つるぎ町	11,702	10,451	9,305
西部Ⅱ	50,938	48,264	45,496
三好市	35,577	32,950	30,393
東みよし町	15,361	15,314	15,103

年齢3階級別人口割合

(単位：%)

	0~14歳		15~64歳		65歳~	
	平成12年	平成27年	平成12年	平成27年	平成12年	平成27年
徳島県	14.2	12.5	63.8	58.7	22.0	28.8
美馬市	13.4	11.5	59.1	55.4	27.5	33.1
つるぎ町	11.3	9.1	54.1	49.9	34.6	41.0
三好市	13.0	10.6	55.4	52.1	31.6	37.3
東みよし町	16.3	14.5	57.0	56.8	26.7	28.7

○現状と考察

平成20年10月1日現在における徳島県の総人口794,189人に占める、西部Ⅰ・Ⅱ医療圏の人口は91,096人となっており、総人口に占める割合は11.5%と低い状況である。

また、県西部地域の将来推計においても、人口減少に伴い少子高齢化が進むものと予想され、山間部を抱える地理的条件を考慮すれば、過疎化は一段と加速するものと考えられる。

こうした状況の中、つるぎ町の推計人口は、平成22年の見込数10,451人から5年後の平成27年においては9,305人となり、さらに年齢別人口割合では、14歳までが9.1%、65歳以上が41.0%となっており、人口減少と少子高齢化の進行が顕著である。

次に、県西部に位置する公立病院は、西部Ⅰ医療圏では町立半田病院、西部Ⅱ医療圏では県立三好病院と市立三野病院の3病院となっている。うち、町立半田病院と県立三好病院が、各医療圏における地域医療の拠点病院となっているほか、救急告示病院、災害拠点病院に指定されている。

さらに、公立2病院は、へき地医療拠点病院に指定され、町立半田病院は「八千代国保診療所」、「木屋平国保診療所」へ、県立三好病院は「西祖谷山村国保診療所」へ、それぞれ医師を派遣している。

また、この医療圏に属する公立3病院、民間病院、医院、診療所のほか保健施設を加えた県西部地域の医療機関においては、病病・病診連携をはじめとした積極的な取組みにより、地域住民の医療ニーズに即した医療体制を推進している。

しかし、西部Ⅰ医療圏の救急医療体制における2次救急医療施設は、ホウエツ病院と半田病院となっているが、専門医療の整備の遅れもあり、当医療圏内の入院の自己完結率(53.6%)が低い状況である。

西部Ⅰ医療圏においては、地域住民の医療ニーズと安定した医療サービス提供に対応するためにも、専門医療の整備が課題となっており、半田病院においても、整形外科の常勤医が不在の中、救急医療体制の整備が急務となっている。

医療圏内及びその周辺病院の状況

病 院 名	経営主体	所 在 地	常 勤 医師数	許 可 病床数	救急 告示	災害 拠点
半田病院	つるぎ町	つるぎ町半田	18人	134床	○	○
八千代診療所	〃	〃	非2人			
木屋平診療所	美馬市	美馬市木屋平	1人			
口山診療所	〃	美馬市穴吹町	非2人			
岡内科	医療法人	美馬市脇町		30床		
桜樹会桜木病院	医療法人	美馬市脇町		185床		
藤野会成田病院	医療法人	美馬市脇町		39床		
長寿会秦病院	医療法人	美馬市脇町		38床		
芳越会ホウエツ病院	医療法人	美馬市脇町		65床	○	
真鍋病院	医療法人	美馬市美馬町		60床		
大島病院	個 人	美馬市脇町		48床		
峯田病院	個 人	美馬市穴吹町		44床		
仁清会永尾病院	医療法人	つるぎ町貞光		33床		
谷病院	個 人	つるぎ町貞光		42床		
三好病院	徳 島 県	三好市池田町	25人	220床	○	○
三野病院	三 好 市	三好市三野町	3人	75床		
西祖谷山村診療所	〃	三好市西祖谷山村	1人			
三木会三木病院	医療法人	三好市三野町		55床	○	
三野田中病院	医療法人	三好市三野町		99床		
三加茂田中病院	個 人	東みよし町		231床		

※医院は除く

次に、平成19年度半田病院の病病・病診連携による「他の医療機関、保健施設との相互紹介」実績は、次のとおりである。

①他の医療機関、保健施設からの紹介件数 (1,615件)

西部Ⅰ医療圏【入院】

病 院	41件
医 院	57件
診 療 所	8件
保健施設	5件
計	111件

西部Ⅰ医療圏【外来】

病 院	222件
医 院	362件
診 療 所	91件
保健施設	16件
計	691件

西部Ⅱ医療圏【入院】

病 院	28件
医 院	8件
診 療 所	2件
保健施設	1件
計	39件

西部Ⅱ医療圏【外来】

病 院	132件
医 院	66件
診 療 所	7件
保健施設	14件
計	219件

その他医療圏【入院】

病 院	37件
医 院	7件
診 療 所	1件
保健施設	0件
計	45件

その他医療圏【外来】

病 院	166件
医 院	124件
診 療 所	3件
保健施設	19件
計	312件

県外【入院】

病 院	4件
医 院	2件
診 療 所	0件
保健施設	0件
計	6件

県外【外来】

病 院	79件
医 院	106件
診 療 所	4件
保健施設	3件
計	192件

【入院】 合計201件

【外来】 合計1,414件

うち診療科別の紹介件数(入院、外来含む)

内 科	549件	外 科	141件	整形外科	208件
泌尿器科	123件	産婦人科	344件	小 児 科	20件
耳鼻咽喉科	40件	眼 科	15件	放射線科	175件

○現状と考察

平成19年度実績による「他の医療機関」からの紹介は、西部Ⅰ医療圏内における紹介件数が802件であり、全体の約半数を占めている。

うち、病院、医院からの紹介が85%となっており、主には専門外の疾病による専門外来及び検査等による受診となっている。

西部Ⅱ医療圏からの紹介では、隣接の旧三加茂町や三野町に所在する病院・医院からのものが大半を占めており、西部Ⅰ医療圏と同じく、医療機関の連携による紹介となっている。

また、「その他医療圏及び県外医療機関」からの紹介については、主には大学病院等での専門診療後の医療継続によるもののほか、妊婦の里帰り出産の受け入れによる紹介患者となっている。

②半田病院から他の医療機関への紹介件数（881件）

西部Ⅰ医療圏【入院】

病 院	7件
医 院	2件
診 療 所	0件
保健施設	14件
計	23件

西部Ⅰ医療圏【外来】

病 院	55件
医 院	55件
診 療 所	6件
保健施設	9件
計	125件

西部Ⅱ医療圏【入院】

病 院	10件
医 院	0件
診 療 所	0件
保健施設	7件
計	17件

西部Ⅱ医療圏【外来】

病 院	96件
医 院	10件
診 療 所	1件
保健施設	1件
計	108件

その他医療圏【入院】

病 院	15件
医 院	0件
診 療 所	1件
保健施設	2件
計	18件

その他医療圏【外来】

病 院	409件
医 院	33件
診 療 所	1件
保健施設	0件
計	443件

県外【入院】

病 院	12件
医 院	0件
診 療 所	0件
保健施設	0件
計	12件

県外【外来】

病 院	113件
医 院	22件
診 療 所	0件
保健施設	0件
計	135件

【入院】合計70件

【外来】合計811件

うち診療科別の紹介件数(入院、外来含む)

内 科	346件	外 科	70件	整形外科	146件
泌尿器科	59件	産婦人科	106件	小 児 科	96件
耳鼻咽喉科	31件	眼 科	27件	放射線科	0件

○現状と考察

平成19年度実績による、当院から「他の医療機関」への主な紹介事由としては、専門医療及び慢性期医療を要する患者の紹介となっている。

その中、専門医療を要する患者に対する県内の紹介病院は、西部Ⅱ医療圏の県立三好病院、東部Ⅱ医療圏の麻植協同病院、東部Ⅰ医療圏の県立中央病院のほか、徳島大学病院、徳島赤十字病院となっている。

また、県外の紹介病院は、主に周産期医療施設である香川小児病院への紹介となっている。

なお、診療科別では、内科、整形外科、産婦人科が、総紹介件数の67.9%を占めている。

(2) 「地域包括医療」連携の推進

半田病院は、地域医療を担う中核病院として、適切な病院経営と適正な医療提供に向けた体制整備を図るとともに、つるぎ町による保健・福祉・介護の保健事業活動との連携を密にし、「国保直診」として地域住民の健康保持・増進に向けた活動にも取り組んでいる。

これまでも、つるぎ町保健事業の実施を受け、国民健康保険加入者をはじめ、地域住民を対象とした健診を担当してきた。

健診実績

平成17年度	平成18年度	平成19年度
1,516人	1,729人	1,718人

また、旧半田町からの取組みとして、平成12年より半田病院は「地域包括医療・ケア」連携を実践する施設として、健康フェスティバル、出前座談会、物忘れトーク、健康づくり講座、性教育講座の開催など、住民の健康増進に向けた活動に携わっており、つるぎ町発足後も実施している。

特に、徳島県の糖尿病による死亡率が全国ワースト1位という状況が続いていた中、各種教育講座での糖尿病予防のための継続した取組みを行ってきた。

そして、平成19年に県医師会から公表された糖尿病SMR(※)の地域別データにおける「つるぎ町」の状況は、平成14年以降の死亡率が前回数値から大幅に改善した。このことは、地域包括医療・ケアへの取組みが、今回の改善要因の一つであると考えている。

つるぎ町の糖尿病SMRの状況(徳島県医師会資料抜粋)

	H9～H13	H14～H18
男性	182	75
女性	136	117

※全国標準化死亡比(SMR)基準値の100より大きい場合は、その地域の死亡状況は全国より悪いことを意味する。

次に、老人医療費の抑制に向けた継続した取組みにより、平成19年度の徳島県市町村別「一人当たりの老人医療費」は、782,237円で、高額医療費の市町村順位で20番目となっている。

これについても、つるぎ町の住民を対象とした健康増進への取組みもあり、高齢者の健康保持への認識が高まったことにより、医療費の抑制が果たせたのではないかと考えている。

また、平成20年度から新たに特定健診・保健指導が施行されたこともあり、つるぎ町が推進する地域住民の地域包括医療・ケアへの取組みは、今後、重要な役割を担うものとする。加えて、県西部地域の将来展望は、少子高齢化と過疎化が一段と加速される中、地域を構成する自治体にとって、予防と診療が一体となった取組みが不可欠である。

母子訪問件数

平成17年度		平成18年度		平成19年度	
国保	社保	国保	社保	国保	社保
9件	41件	9件	43件	6件	84件
50件		52件		90件	

訪問医療状況(延人数)

年 度	対 象 者	訪問診療	訪問看護
平成17年度	76人	53人	269人
平成18年度	62人	38人	239人
平成19年度	52人	36人	185人

さらに、半田病院では、患者及びその家族からの医療相談等に対処するため、平成18年度に地域連携室を設置しており、病病・病診連携を密にした患者への対応のほか、医療福祉相談にも積極的に取り組んでいる。

平成19年度における医療福祉相談実績は、次のとおりである。

平成19年度 医療福祉相談内容別件数

相談内容	件数
在宅復帰に関する相談(介護保険等)	363件
施設入所に関する相談	187件
他院への転入院	151件
福祉制度に関する相談	122件
医療費に関する相談	98件
心理傾聴	85件
療養中の生活に関する相談	82件
他院からの転入院	54件
生活費に関する相談	27件
受診援助	25件
その他	20件
計	1,214件

以上のように、保健・医療・福祉・介護の連携による地域住民の健康増進への必要性が高まる中、今後「国保直診」が果たす役割は増大するものと考えらる。

住民とつるぎ町が一体となった「地域包括医療・ケア」連携への取組み活動は、半田病院が医療サービスの提供だけではなく、地域住民の健康保持・増進のために地域に積極的に関わっている医療機関ということであり、当院の大きな特徴でもある。

今後も、住民の理解と関心を高めていくとともに、医師確保においても当院が行っている「地域包括医療・ケア」(※)連携への取組み活動を積極的にアピールしていく。

※地域包括医療ケアシステム： 地域住民に対して、保健サービス（健康づくり）、医療サービス及び在宅ケア、リハビリテーション等の介護を含む福祉サービスを、関係者が連携、協力して、地域住民のニーズに応じて一体的、体系的に提供する仕組み。

(3) 県西部医療圏の産科集約化

全国的な社会問題となっている産科医療の過酷な勤務実態を背景に、公立病院においては、産科常勤医が激減する事態となっており、こうした医師不足の影響を受け産科の縮小や廃止を余儀なくされている。

このような状況は、本県においても同様であり、地域住民への安定した医療サービスの提供が困難な状況に陥っている医療圏が出ている中、県をはじめ徳島大学、県医師会等による対応策の協議が進められている。

この中、県立三好病院及び麻植協同病院が産科医不足により、平成21年4月から分娩の休止が予定されており、また、美馬市の産婦人科診療所においては、すでに分娩が休止されている。これにより、分娩施設は、西部Ⅰ・Ⅱ保健医療圏では半田病院、東部Ⅱ保健医療圏では1診療所のみとなる。

こうした事態に際し、地域住民の医療不安の解消を図るため、県立三好病院、麻植協同病院、半田病院の公的3病院のほか、産婦人科診療所によるセミオープンシステムの協定が結ばれ、妊婦健診、出産への共同体制を整備するとともに、半田病院から県立三好病院へは、医師派遣の支援を行うことになった。

このような、県内の産科医療の厳しい状況に対応するため、産科の集約が進められている中、県西部広域医療圏における産科の集約化を受け、半田病院が唯一、分娩を受け持つ診療施設となる。

半田病院が県西部広域医療圏で唯一、分娩を受け持つ診療施設となる中、県西部広域医療圏の出生数を把握し、今後、当院が果たすべき役割を次に掲げた資料をもとに検証する。

平成18年、19年の徳島県における出生総数及び半田病院の分娩数の推移は、次のとおりである。

出生総数及び半田病院における分娩数

(単位：人)

	平成18年	平成19年	平成20年
徳島県	6,211	6,070	5,901
吉野川市	270	318	299
阿波市	264	263	256
美馬市	222	193	207
つるぎ町	62	50	46
三好市	151	153	158
東みよし町	122	107	111
当院の分娩数	526	483	532

○現状と考察

徳島県の出生総数は、平成18年は6,211人、平成19年は6,070人、平成20年においては5,901人と伸び悩んでいる。その中、平成20年の県西部地域における出生数が総数に占める割合は、8.8%と低い状況である。

特に、つるぎ町の出生数は、近隣の市町に比べ低出生数であり、この傾向は、前述の人口動態の推移予想のほか、年齢3階級別人口割合とも整合する。

このように、徳島県の出生数が伸び悩む現状の中、県西部においては、少子化による地域格差が顕著となり、一段と高齢化が進展する要因となっている。

その中であって、半田病院で取扱った分娩件数は、平成18年は526人、平成19年は483人、平成20年は532人となっている。

なお、当院が受け入れる妊産婦は、西部Ⅰ・Ⅱ保健医療圏に留まらず、東部保健医療圏の一部も対象となっていることに加えて、県内外からの里帰り出産を受け入れていることによる。

次に、県立三好病院及び麻植協同病院のほか美馬市の産婦人科診療所の分娩の休止に伴い、その役割を半田病院が受け持つこととなるが、平成19年度の美馬、三好保健所が集約した当該病院の出生数は、次のとおりである。

なお、この資料は、当該市町での出生数であり、里帰り出産は含まない。

西部Ⅰ医療圏市町別出生数

(単位:人)

	出生数	西部Ⅰ医療圏医療機関			医療圏外		
		半田病院	診療所	その他	麻植協同	その他	県外
美馬市	180	101	31	1	9	29	9
つるぎ町	52	42	2			5	3
合計	232	143	33	1	9	34	12

西部Ⅱ医療圏市町別出生数

(単位:人)

	出生数	西部Ⅱ医療圏医療機関		西部Ⅰ医療圏医療機関		その他	
		三好病院	その他	半田病院	その他	県内	県外
三好市	190	46		109		5	30
東みよし町	131	8		108		3	12
合計	321	54		217		8	42

このように、県西部Ⅰ・Ⅱ医療圏における出生数を見ると、当院が占める割合は65.1%となっている。

このことは、従来から、当院が県西部地域における産科医療の中核を担ってきたことを示すものであり、今回の分娩休止を受け、これまで対応していた当該医療機関の分娩相当数を当院が受け入れることが予想される。

広域の産科医療を担っていくことにより、分娩数の増加が見込まれるが、少子化傾向を踏まえた当医療圏の中期的視点に立ち、当院の分娩数は今後、約50件増加するものと予想している。

また、産科、小児科医師の不足が深刻となっている現状を解消するため、西部Ⅰ・Ⅱ医療圏の自治体は、住民福祉の向上を責務とし、地域と一体となった医師確保への取組みが必要となってきた。

(4) 地域住民の理解と認識の共有

以上のように、半田病院が果たすべき役割を見出していく上で、県西部の広域医療圏を取巻く医療環境と将来展望を見据えた場合、本町を含む県西部地域の人口減少と少子高齢化の進行とともに地域住民の健康保持・増進に向けた「地域包括医療・ケア」への取組みのほか、過疎地域における公立病院の果たす地域医療

の役割は益々増大していくものと考えられる。

これを受け、県西部医療圏に位置する公立3病院は、地域医療の確保を責務とし、連携と相互支援体制を進め、地域住民への安定した医療提供を目指していくほか、当院においては、国保直診の責務である住民の健康保持・増進に積極的に取り組んでいかなければならない。

しかしながら、医師不足が恒常化する中、救急医療をはじめとした医療現場の実態は過酷な状況が続いている。このような現状を抱えた病院の実態を広く地域住民に理解を得ることも必要となってきた。

よって、半田病院は、国保直診としての存在意義を被保険者であるつるぎ町民と共有するため、当院の医療現状と課題を積極的に情報発信していくほか、地域住民との意見交流を図る中、病院運営への理解と協力を得るものとする。

さらには、行政と地域が一体となった「自ら地域の医療を守る」ことを目指し積極的に取り組みを展開していく。

- 「病院だより」の有効的な活用及び病院ホームページによる情報発信
- つるぎ町広報による病院情報の提供
- 西部Ⅰ医療圏を構成する「美馬市」及び「つるぎ町」の住民代表との意見交換を平成21年度から定期的に実施する。

今回の改革プランにおける半田病院が果たすべき役割は、次に掲げた基本指針をもとに地域医療の確保に向け積極的に取り組んでいくことが責務と考える。

西部Ⅰ医療圏の地域医療を担う中核病院として救急医療及び病病・病診連携に積極的に取り組む中、地域住民が安心できる医療体制を構築する。

「国保直診」の使命である「地域包括医療・ケアシステム」の拠点として活動する。

当院への産科集約化を受け、診療体制及び医療設備の充実を図るほか、小児科の機能整備に取り組み、「安心できる」小児・周産期医療の提供に努める。

3 半田病院の経営形態

近年の医療ニーズは、医療の高度化、高齢化社会の急速な進展による高齢人口の増加、慢性疾患の増加により複雑多様化する傾向にある一方で、国においては、増大する医療費の抑制政策が進められるなど、病院経営を取巻く環境は一段と厳しい状況となっている。

このような中であって、半田病院は、過疎地域における地域医療の拠点として安定した医療サービスの提供を行うほか、救急・へき地医療等の不採算部門を担う役割を負っており、地域の将来展望として、少子高齢化が進展する中、地域医療を支える当院の役割は、益々増大していくものと考ええる。

よって、西部Ⅰ医療圏に位置する半田病院が、地域医療の拠点として医療を担っている現状を客観的に判断すれば、公立病院としての存続が不可欠であり、病院の機能維持と健全経営の両立を目指し、医療環境の変化を的確に把握し迅速に対応できる体制（公営企業法全部適用）を維持していくことが、当院にとっての最善の策と考える。

計画期間に示す経営形態

法の全部適用と病院事業管理者の設置による経営形態を維持する。

事業管理者の権限のもと、病院経営方針を基本に医療環境の変化に柔軟かつ機動的に対応した病院経営を目指す。

事業管理者は、人事執行にあたり適正な職員配置に努める。そして、看護基準の改正がない限り、現行の職員定数140人を遵守する。

職員採用にあたっては、各職種の職性に応じ雇用形態(臨時・パート等)の多様化を図り、適正な職員定数管理を行う。

事業管理者は、経営責任を明確にした裁量のもと、安定した病院経営を図るため諸課題の解消に向け迅速に対処していくほか、投資においては費用対効果を検証し、効率的かつ有効的な執行を推進する。

4 診療機能の充実への取組み

(1) 医師確保と診療体制の充実

現在、整形外科医が不在のため、大学病院から週1回の支援を受けているが、地域の救急医療体制の確保と地域の医療ニーズに対応するためにも、整形外科常勤医師の確保が喫緊の課題となっている。

医師確保に向けた取組みとして、従前より行ってきた民間求人バンクや全国自治体病院協議会への求人登録を進めている。

さらには、後期研修医の受け入れ体制を整備し、徳島大学及び自治医科大学をはじめとした関係病院への積極的な働きかけを行っている。

次に、内科診療の効率化に向け専門外来への診療体制整備を進めていく。さらに、消化器疾患への対応を図るため、平成23年度を目途に消化器内視鏡センターの設置に向け取り組んでいく。

これまでも、内科医師による早期治療の観点から内視鏡検査を積極的に取り入れており、内視鏡による検査件数は伸びてきている。今後も増加していくものと見込んでおり、内視鏡専門医、臨床検査技師の確保を図るとともに、施設整備を進め、消化器疾患の内視鏡検査等の充実を目指す。

内視鏡検査の推移

	平成18年度	平成19年度
C F	275件	326件
G F	876件	930件
計	1,151件	1,256件

同じく診療体制の充実として、平成21年度には、増加する透析患者に対応するため、透析システム3台の導入を計画している。現在、泌尿器科の医師2名体制が確保された中、医療スタッフの充実を図り、透析患者50人の受入れ体制を整える。

また、医師の業務軽減を図るため、平成20年6月より医師事務作業補助者(医療クレーク)2名を配置。12月末現在での事務処理件数は、710件となっており、今後、医療クレークの事務補助により、診療業務以外の煩雑な業務負担の軽減を図っていく。

書類別処理件数

区 分	件数	区 分	件数
生命保険診断書	410	通所リハ指示書	5
交通事故診断書	12	診断書	1
傷病手当意見書	54	国家公務員災害補償休業補償請求書	1
介護保険主治医意見書	149	建設労働組合給付申請書	1
労働者災害補償保険診断書	3	健康診断書	2
訪問看護指示書	23	インターフェロン治療助成申請書	1
訪問リハ指示書	6	その他書類(個人照会等)	21
特定疾患診断書	21	計	710

診療科別処理件数

科 名	件 数	科 名	件 数
内 科	302	泌尿器科	49
外 科	130	産婦人科	200
整形外科	29	計	710